



第21号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

「聖人 故郷に帰りて……長安・洛陽の栖も跡
をとどむるに嬾しとて、扶風馮翊とてころどころ
に移住したまいき」(伝絵)

関東から京にもどった親鸞聖人の目的は何であったのか。多くの研究者がいろいろと論じているが、貧しかった事は事実である。住居も定まらなかったと思う。

承元の法難で流刑。嘉禄の法難による京都での念仏の指導者たちの追放、さらに全国に及んだ農民念仏者の弾圧。このことが親鸞をして、関東から京へと移らせたと思う。身をもって法然上人の念仏教団がどのような状態になっているのかを、まずみる必要であったと思う。

承元の法難で指導者を失った教団も、その後二十年の努力が実って親鸞聖人が関東で布教したのは一例かもしれないが、念仏者は全国的に高まりつつあったと思う。

農村への普及も盛んであったと思うが、この事が一方で領家・地頭・名主で全国支配を始めた鎌倉幕府の注目するところとなったのだろう。

いずれにしても聖人は法然上人を中心とした黒谷の念仏道場の実現を願われたと思うが、現実の姿をみての失望は大衆に訴えるべき和讃執筆に向けられることになった。

「無慚無愧のこの身にてまことのこころはなければども弥陀の回向の御名なれば 功德は十方にみちたまう」
自己反省を繰り返し繰り返し弥陀の光明をいただく姿勢は衰えることがなかった。



聖人のおことば

『日本源空聖人ノ、ノタマハク。選択本願念仏集ニイハク、南無阿弥陀仏、往生之業、念仏爲本トイフハ、安養淨刹ノ往生ノ正因ハ念仏ヲ本トスト申スミコトナリ。正因トイフハ、浄土へ生ルル^{うま}タネト申スナリ』

日本の法然聖人である。日本で私の師と仰ぐ人物は法然聖人ただ一人だと申されている。

正信偈は三国伝来の仏法の歴史が述べられている。「印度西天之論家・中夏日域之高僧」とあるがそれぞれある。インド・中国・日本へと伝来した仏法の妙華ともいうべき念仏を説いて下さった七人の高僧の歴史である。ここで気がつくのは本師曇鸞・本師源空の二句である。この両師の学説を深く心に受けとめられた故

に本師なる語があると思う。俗的にいえば「私の先生」「私の恩師」というところでしょう。特に法然聖人について、いたるところで「故聖人による」「よき人の教え」「ひとへに聖人に」とある。

私たちはこのような深いところでの出会いというものを、尊重しなければいけないと思う。

住職法話

その日はお釋迦のおみえになる日であった。村の者たちは喜びにみちていた。道を清め水をまいた。お釋迦の座を二重三重の花でかざりつけた。そしてお堂一面に灯をともした。お金持ちや大地主は大きなろうそくを寄進した。村の者たちはそれぞれの身分(財産高)に応じてろうそくを寄進した。一人のみるからに卑しい老人がやってきて「ろうそく商」にこれで一本私にも下さいと小銭

を出した。「ろうそく商」は言った。

「婆さんや、それぼっちでは一本の半分も買えねえよ」

婆さんは言った。

「お釋迦様にあげたいから、これで

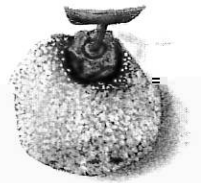
買えるだけのものを」としつこく言った。

「じゃこれをやるよ」

ろうそく商は燃え残りの一寸ほどのちびれたろうそくを渡した。

お釋迦のお話が始まろうとした時、どこからともなく一陣の風が吹いた。室内は真つ暗くなった。その時、不思議なことに老人のちびれた小さいろうそくだけが一つだけ燃えていて、みるみるうちに室内が明るくなった。

あいつには負けたくないとか、俺は金持ちだとか、見えを張るとか、仏のために俺は大寄進するとか、これはすべて醜いことです。真実に生きる人こそが仏の声を聞くことができるのです。「その人が何をしたかで人間の価値は決まるものです」



私の母さん (一)

(いし女)

私の母は百歳に近い。でも健康そのものである。母の休んでいる姿を見たことがない。常に何かをこそごととしている。休むこと、すなわち余暇ひまをみつけるとか趣味に走るとかということが全くないのである。専業農家の主婦として四人の子供を育て、いずれ終わりを告げるであろう人生をこまめに生き生きとしている。

どの農家もそうであったように閑期には副業があった。二、三の農家が組をつくり、真夏に青田刈りをした稲で正月用の注連を作る作業が母の手仕事である。稲葉地町上の切の神明社の注連は母の作品である。母の作る注連の氏子としてゆかりある地域に住む幸せをかんずるのである。

もうすぐそこまで新年はきている。

行事予定

十二月四日(金)～六日(日)

報恩講執行

十二月十二日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(土) 二時～四時 学習会

二十八日(月) 十時 二十八日講・女人講

三十一日(木) 三時 歳末勤行

十一時半 除夜

一月一日(祝) 十時 修正会

九日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(火) 二時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講



平成二十年 大晦日 除夜